

第1、近況、雑感

1. 今年の読書週間が終わったが、いまだ会社で本ばかり読んでいる老人としては、読書年間。終活のつもりで夏から蔵書の整理を始め、2,000 冊ほどを余市の子供食堂・ギャラリー海の手に寄付。50代のころ、あのバブルでアイヌ関係の資料全部を売払って運営資金にしたことがあるが、再入手不能の反省から、誤って二冊買った本以外は処分しないので、増える一方、25,000 冊くらいはあろうが、寺山修司が残した蔵書は47歳で3万冊を超え、今も三沢の記念館の地下に眠っているのと較べれば、来年 90 歳になる老人として、5 万冊くらいあってもと思うと少し恥ずかしい。
2. 毎月まとめ買いをするので本は増える一方。以前本で床が抜けたアパートを見に行ったことがあって、今のサンケンビルを三井建設の同級生に頼んだ時の重点は、床が落ちない建物の補強であった。本注文用のファイルには「本で床は抜けない、読む気を無くしたら老ける！」と大書してあるが、すぐ読む見通しのない本を何故買うかの反省も必要なのだが、少年時代に古本屋通いをして欲しい本を買えなかつた頃の怨念みたいなものかも知れない。当時 1 冊 30 円の文庫本の古本を半額くらいで手に入れ、3 冊 30 円で売つて、目をつけておいた本を 2 冊買って何度も読むしかなかったころの、「木枯らしや 古書売り、古書を 買いに来る」の句は、半世紀後に俳文学者の復本一郎さんが岩波の書物に紹介してくれたのも 30 年前。
3. 木枯らしの季節。どうやら日中関係にも木枯らしは吹き始めたようだ。あの程度の発言で、日本のうまい帆立を食べられなくなる中国人のアワレ。ついでに訪日制限。向こう側も言いたい放題、やりたい放題だが、90 年前の 7 月の盧溝橋事件からポツダム宣言で無条件降伏したが、私などは中国と戦った、そして負けたなどとは思っていない。第二次世界大戦の中心はアメリカで、樺太・千島を盗ったロシアなどと戦ったとも思ったことはないが。俄か作りの甘さが女首相にあったのではないか。
4. 昭和100年、戦後80年の記念すべき年の暦も少なくなったが、戦争責任を問う出版物と原爆、原発の跡始末の発言が目立った。そこに柏崎と北海道泊の原発二基の再稼動許可。二人の知事も同意の方針のようだが、住民の同意に代わるものでは断じてない。福島の教訓はどこへ消えたのか、東京電力の企業責任は重い。8 兆円とか23兆円の赤字処理のためにも再稼動が必要とされるが、営業利益が目的ならば、新たにもっと大型のものを、電力を必要とする東京の港区に作ってはどうか。柏崎だから、泊だからと黙認していた人らが絶対反対の合唱をするのは疑いない。当社も文京区に事務所があり、岩内泊での学習を参考に発言することも出来るだろうか。
5. インフルエンザの患者が増え、近年の国民医療費が48兆円を超えているとか。高額ながん新薬もその一端に加えられ、健康保険制度の維持が難くなるが、更に高額な新薬の開発は世界中で進んでいる。日本人は小さな変調でもすぐ保険証を握って治療に走る。1 時間も待たされて、時には院内感染も引き受け、がんの疑いでレントゲン使用、さらにがんへ自分を追い込んでしまいか。この便利安価な保険制度がなければ、この国のがん患者は

もう少し減るのであれば、医療、製薬関係の方にまたお叱りを受けるだろうか。

6. <MINERA21>の販売を始めてから四半世紀が過ぎたが、健康に関する基本を殆ど教えない義務教育のためか、質問・問合せが多く、37歳で役人を辞めて52年、風邪はもとより内科の病名をもらったこともないと自慢したいところだが、向上心・好奇心も含めて、疾病万般、新薬、免疫、食育まで常に学ぼうとしていることも先に記した本が増える理由のようだ。
7. 今夜も木枯らしが吹いて寒い。かつて「風が吹けば桶屋が儲かる」とあったが、今やその桶を作る職人もいない。木枯らしが吹けば、医者・薬局は忙しくなって儲かるだろうが、この国の保険費損失も大きい。ここで<MINERA21>の効用を書きたいが、宣伝はやめにして、どうか良い空気と水を十分に摂って、sleep ! sleep ! sleep ! 暖かくしてお安みください。

第2、 今月の報告文

- ・首都圏は米軍の「訓練場」あとがき（2025.9.30、藤原書店刊）

第3、 今月の再読本

- ・ 「友よ荒野を走れ」
(野村 秋介、1991.4.20、二十一世紀書院 2,000円)
- ・ 「ブレイクスルー」
(日比野省三・梶原拓、1993.11.10、講談社 1,800円)
- ・ 「解き明かされた『不老の水』」長寿王国の秘密は「水」にあった
(ドリーム書房、1999.3.31、ドリーム書房 1,430円)
- ・ 「炎と怒り」トランプ政権の内幕
(マイケル・ウォルフ、2018.2.20、早川書房 1,980円)
- ・ 「銀河の片隅で化学夜話」
物理学者が語る、すばらしく不思議で美しいこの世界の小さな驚異
(全 宅樹、2020.2.10、朝日出版社 1,760円)

第4、 今月のことば

- 人は決して今思っているほど不幸でもなく、かつて願っていたほど幸福でもない。(ラ・ロシュフーコー)
- 書物はしばしば別の書物のことを物語る。一巻の無害な書物がしばしば一個の種子に似て、危険な書物の花を咲かせてみたり、あるいは逆に、苦い根に甘い実を熟れさせたりする。(ウンベルト・エーコ)
- 「仕事というものは、全部をやってはいけない。八分まででいい。八分までが困難の道である。あの二分はたれでも出来る。その二分は人にやらせて完成の功を譲ってしまう。それでなければ大事業というものはできない。(司馬遼太郎)

2025年11月30日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)